

## 【1 分解説】昆明・モンリオール生物多様性枠組とは？

総合調査部 マクロ環境調査グループ 副主任研究員 牧之内 芽衣

---

昆明・モンリオール生物多様性枠組とは、生物多様性に関する世界目標のひとつです。2022年12月にカナダのモンリオールで開かれた生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択されました。ポスト2020生物多様性枠組、またはGBF（Global Biodiversity Framework）ともいいます。

前身の愛知目標（生物多様性の損失を止めることを目的としてCOP10で策定された20の個別目標）を引き継ぎ、2050年ビジョンには「自然と共生する世界」を掲げています。その他、「自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる」2030年ミッション、そしてそれらの具体的なゴールを描いた2050年グローバルゴール、2030年グローバルターゲットなどで構成されています。

数値目標を盛り込んだターゲットが少なく、成果を測りにくい面があったという愛知目標の反省を受け、2030年グローバルターゲットの多くに数値目標が組み込まれました。

※本稿は、週刊エコノミスト(10月3日号)への寄稿を基に作成しています。

## 資料 昆明・モンリオール生物多様性枠組

### 2050年ビジョン:自然と共生する世界

2050年ゴール			
A	生態系の健全性、連結性、レジリエンスの維持・強化・回復。 自然生態系の面積増加 人による絶滅の阻止、絶滅率とリスクの削減。在来野生種の個体数の増加 遺伝的多様性の維持、適応能力の保護	C	遺伝資源、デジタル配列情報(DSI)、遺伝資源に案連する伝統的知識の利用による利益の公正かつ衡平な配分と2050年までの大幅な増加により、生物多様性保全と持続可能な利用に貢献する
B	生物多様性が持続可能に利用され、自然の寄与(NCP)が評価・維持・強化される	D	生物多様性の資金ギャップ(年間7000億ドル)を縮小し、枠組実施のための十分な実施手段を確保する

### 2030年ミッション:自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

2030年ターゲット			
目標1	生物多様性における重要地域の損失をゼロに近づける	目標14	生物多様性の価値を、政策・規制・計画・開発・環境アセスメント・会計などに統合する
目標2	劣化した陸域・淡水域・海水域の生態系の30%を再生	目標15	企業や金融機関が生物多様性へのリスク・依存・影響を評価し、開示することを求める
目標3	陸域、水域、海域の重要地域の30%を保全(30by30)	目標16	食料廃棄を半減、過剰消費の削減、市民の責任ある選択と情報入手を可能にする
目標4	種と遺伝的多様性の回復・保全のための管理を行い、野生生物との軋轢を回避する	目標17	全ての国のバイオテクノロジー管理・利用の能力強化
目標5	持続可能かつ合法的な種の利用・採取・取引	目標18	生物多様性に有害な補助金5000億ドルを段階的に削減
目標6	外来種の侵入や定着を50%減少	目標19	資源(資金)動員を年2000億ドルに増加、途上国向け資金を2030年までに年300億ドルに増加
目標7	環境への栄養分流出・農業リスクを半減、プラスチック汚染を削減	目標20	生物多様性の保全と持続可能な利用のための技術開発強化
目標8	自然に基づく解決策で気候変動の緩和・適応に貢献	目標21	生物多様性に関するデータへのアクセス性確保
目標9	種の持続的な管理と利用で、脆弱な人々の社会的・経済的利益を確保	目標22	生物多様性管理の意思決定への先住民や女性などの公平な参加と権利尊重
目標10	農業、養殖業、漁業、林業の持続的管理と生産性やレジリエンスの向上	目標23	枠組みの実施におけるジェンダー平等の確保
目標11	防災に寄与する自然の恵みを維持・促進		
目標12	都市部での緑地や親水		
目標13	遺伝資源から得られる利益の公正な配分を促進する措置の実施		

(出所)環境省による暫定訳をもとに第一生命経済研究所作成

(注)2030年ターゲットは「生物多様性への脅威の低減」「持続可能な利用及び利益配分による人々のニーズを満たすこと」「実施のためのツールと解決策及び主流化」の3分野で色分け

#### 関連レポート

・「ネイチャーポジティブとは何か(1)～再び集まる生物多様性への注目～」

(2023年3月)<https://www.dlri.co.jp/report/ld/233470.html>